

平成 30 年度第 5 回（174 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 30 年 12 月 18 日午前 10 時から

場 所：アミュービル4階 アイレック 会議室 1、2

出席者：勅使河原功治、本庄佳緒里、有戸英明、景山剛治、菊谷多恵、
木元祥恭、渋谷敏夫、福本徳昭、吉松治任、小糸清美、根岸静代、
石崎勇仁、奥澤礼子、山崎聖

事務局（市民協働係長、企画課主事）

欠席者：赤川都、浅見良子、阿部由紀子、沖山由行、小寺和幸、
村野澄夫

<配布資料>

- 1 平成 30 年度第 5 回（第 174 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 「市内イベント等に地域学生の活用し、活性化、担い手づくりを」回答案
- 3 地域通貨ピースについての資料
- 4 ボランティアセンターより「ボランティアポイント制度」についての質疑に対する回答

1 開会

2 前回の確認

委員長：議事要旨について意見等はあるか。修正等はないということでしょうか。

<委員 了承>

3 提案の審議

委員長：「学生のボランティア活用」の回答内容について検討する。

<委員長より「市内イベント等に地域学生の活用し、活性化、担い手づくりを」の回答案について読み上げる>

委員長：回答案について意見はあるか。

事務局：議事要旨にも記載しているが、回答案のたたき台があったほうが審議を行いやすいと発言があったので、準備した。

委員：社会事業大学となっているが、社会福祉事業大学ではないか。

事務局：ホームページで確認したが「日本社会事業大学」である。こちらの名称に修正する。

<委員 了承>

事務局：では、先ほどご指摘いただいた内容を修正し、回答としてよいか。また、議事要旨に話を戻すが、こちらも社会事業大学になっているので、日本社会事業大学に修正する。

委員長：では、こちらの内容で議事要旨の修正と提案者に回答してほしい。

<事務局 了承>

委員長：ボランティアポイント制度について審議する。ボランティアのあり方として、もっと学ぶ必要があると思う。その中で、地域通貨ピースという団体の名前が前回のワークショップで挙がっていた。今回は代表者の方の日程調整ができなかったので、資料を一部抜粋して配布した。

委員：私もピースについて調べたので報告する。個人会員、団体会員になり会費を払って会員券をもらう。今回の資料にはピース券の利用については書いてあるが、お金の動きが書いてない。今回、ピースがでてきた理由として、地域通貨の一例として出てきたということによいか。

委員長：それでよい。

委員：ピースが広く周知されないのは、会員になる必要があることと、券が使えるお店が限られていることだと思う。繰り返しになるが、今回ピースが話題に出てきているのは、ピースを有効活用するためなのか、ピースを参考とするためなのか、確認したい。

委員長：参考にするためである。

委員：ボランティアを無償か、有償かというところでは、ボランティアは無償なものであると考える。無償で行っている人は「私はボランティアをしている！」という感覚で行っている人もいると思う。

委員：ボランティアの種類にもよるが、私が入っている団体では、「私はボランティアをしている！」と思って行っている人はいない。

事務局：有償ボランティアと無償ボランティアについてボランティアセンターに確認したが、ボランティアというのは、ボランティア精神に基づいた活動で無償にて行うべきとの考えがあるとのことだった。

委員：本来、ボランティアは「無償」である。

委員長：前回のワークショップの意見を見ると、ボランティアのあり方について意見が多く出ていた。今回はそこを審議したい。また、今回の会議に向けて委員長、副委員長、事務局とで話し合いを持った。そこで、

ボランティアセンターにいくつか質問を投げかけているので、事務局より説明願う

<別紙資料「ボランティアヒアリング」を事務局より読み上げる>

委員：フレンドサービスを受ける方は65歳以上なのか。

事務局：おおむね65歳以上である。

委員：有償化するのが難しいという前提で話を進めないといけないと思う。
お金やポイントに変えるのではなく、ボランティアをすることで幸福感や自分が満足することが大事である。

委員：ボランティアをすることの目的を明確に捉えることが重要と思う。

委員：先ほどのボランティア精神に基づくボランティアセンターの考え方で進めていけばいいと思う。

委員：市の健幸ポイントはうまく展開していると思う。

委員：健幸ポイントはそもそも市民が元気に過ごすことで医療費の削減につながっている制度である。財源がかかっても医療費が削減できればよいという目的がある。

委員長：次に前回のワークショップの意見と本日の意見を踏まえて、今回の提案に関して一言ずつ意見を願う。

委員：今回の提案は反対か賛成かといったら賛成である。健幸ポイントのように、ボランティアポイントも楽しくできると思う。

委員：この提案を進めるのであれば、他市などの実例があるとよい。

委員：有償になるとボランティアではないと思う。

委員：ボランティアは基本、無償だと個人的には思っている。しかし今後はボランティアポイント制度の導入も必要になってくると思う。ただ、その導入の手法は複雑である。まちづくり委員会では決められないのではないか。

委員：ポイント制度の導入は良いと思う。ただ、ボランティアとは自分で行いたいと思ってやることだと思う。多くの人を巻き込むのは複雑だと思う。

委員：ボランティアの有償か無償かの話になっているが、地域ポイント制度についての提案だと思うので、ボランティアに焦点を当ててではなく、地域ポイントの制度に焦点をあてたい。市内にはボランティア等様々あるので、それをまとめて、地域ポイント制度として議論できたらいいと思う。

委員：地域ポイント制度を利用して、ポイントを貯め、市の特産品などとの交換だと市のPRにもつながると思う。

委員：ボランティアは始めるまでが大変で、始めてみると意外とできるものである。その、始めるきっかけとしてポイント制度は良いと思う。

- 委員：提案の方向性に関しては賛成である。ボランティアポイントでなく、絆ポイントなどにすると市民も受け入れやすい。この提案はここで結論を出すのではなくて、もっと詰めて話さないと結論は出ない。
- 委員：ボランティアポイント制度は賛成である。作業など手伝っていただけたら、何かしら返したいという気持ちはある。
- 委員：もう少し、運営体制をしっかりと検討して、話を進めていきたい。関係者に話を聞くのもいいと思う。
- 委員：母体をどこに持っていきかがわからないが、ボランティアセンターを母体にしていいと思う。ボランティアは無償というボランティアセンターの考えが根本にはあるが、ポイントを貯める楽しみはあったほうがいい。
- 委員：ボランティアをポイント制にするのは反対である。特に小学生にボランティアをすればお金やポイントがもらえるという考え方を教えたくない。ボランティアセンターの話しによると、ボランティアを求めている件数は少ない。私は地域のための組織作りに関わっている。ボランティアの活動を広げることも大切だが、まずは地域のつながりを強めることが必要なのかと思った。
- 委員長：ボランティアをポイントにすると、労働に当たるかもしれない。そのようなことに小中学生を関わらせたくない。ボランティアポイント制度は国で考えていくもので、清瀬市の中だけでは決められないのではないかとも思う。前回のワークショップでも発言があったが、この制度を行うには資金が必要になってくる。すぐ、ここで回答を出せるものではなく、もっと議論する必要があると思う。
- 委員：小中学生に金銭やポイントを渡したくないと発言があったが、鉛筆等の物品でもいいのではないかと思う。ただ、この提案は多くの課題がある。まちづくり委員会で議論するには、難しい問題と思う。もっと専門的な人たちに議論してもらう必要があると思う。
- 委員：制度としてはいいが、運営と資金を考えると非常に難しいと思う。
- 委員長：皆様に出していただいた意見を次回、話し合いたいと思う。

次回の開催は1月15日（火）10時～ 男女共同参画センター会議室1，2